

(1面の続き)

第1集発行当時の支部には、どの班にも被爆者がいて、「私たち被爆者は訴えたい。もう二度と戦争はいやだ。こんな人殺しの道具を使わないでほしい」と広く伝えたい思いがあり、涙を流しながら被爆者の聞き書きを進めました。戦後から20年になる当時でも被爆者に対する差別や偏見があり、実名が出せない手記が少なくありませんでした。

「木の葉」の題名は、被爆者であり編集委員の第1回国連軍縮特別

の英語版が発行され、世界に被爆の実相を届ける活動に踏み出しました。同年、広島で開催された被爆問題の国際シンポジウムや、翌年の第1回国連軍縮特別

同賞は、アメリカのベトナム侵略戦争に抗議して65年に焼身自殺したアリス・ハーズ夫人の『われ炎となりて』の収益金を平和基金とし、世界の平和運動家に救援金が贈られたもの

第53集はB5判で70ページ。頒価1500円(送料実費)。注文は新婦人広島県本部082(263)0400

「パワハラがひどくて今までも何人も辞めていた。私も今月末で辞めることにしました。が、何とかありませんか」と、辞職が決まった後からの相談がよくあります。

この相談の場合、自分が辞めると従業員が減ってしまうという負担がますます増えると思うので、このこと

また、病気で仕事を辞めたいと思われたいのですが、退職後でもらえないかという相談もありました。退職の日まで1日も休まず勤務し、退職したそう

「辞めたんだけど」ではなく、「辞めたいんだけど」と、退職届を出す前に相談して下さい。

あなたを抱えている働き方や職場の問題を、一緒に考えていきたいと思います。



島本相談員

告知板

基地問題講演会
◆岩国基地の拡張・強化に反対する夏の講演会(廿日市市)

8月24日(土)午後1時半〜4時半、はつかいち文化ホールさくらびあ(廿日市市下平良1丁目11の1)。講師は柴田もゆるさん(日本基督教団函館千歳教会牧師)。

戦争被害の実相②

「満蒙開拓団」資料公開を

広島県からも1万人以上(6)

「満州」への国策移民で多くの犠牲者を出した長野県の阿智村には、関係者、支援者らが資金を集め、県や自治体、最後は国も一定の補助をして設立された民間の満蒙開拓平和祈念館(2013年開館)があります。

当時の性暴力被害の証言活動を支える岐阜県の黒川分村遺族会の藤井宏之会長は「朝日」の取材に、「判断を間違えて戦争を起こすと、末端の一番弱いところ

今年に敗戦から74年。昭和天皇ら戦争指導部の戦争責任が明確にされないまま今日に至っているこの国の現実をふまえ、ここでもう一度、「満州棄民」の問題に触れておきます。

この問題では同時に、中国「残留邦人」の肉親探し、帰国と定住の問題は、いまだに全面的な解決をみていないことを、私たちはしっかりと銘記しておく必要があります。

「うるさい」「お前の声もうるさい」爆音が夜明けを告げる夏

真帆

その旧黒川村(現、白川町)では18年11月18日、そういう女性を悼む「乙女の碑」の碑文が除幕され、そこには、「生きるか死ぬか」「女

日本の戦争指導部が断行した敗戦直後の民間人の「現地残留方針」

連極東軍と交渉する関東軍首脳に手渡ししました。

この問題では同時に、中国「残留邦人」の肉親探し、帰国と定住の問題は、いまだに全面的な解決をみていないことを、私たちはしっかりと銘記しておく必要があります。

「うるさい」「お前の声もうるさい」爆音が夜明けを告げる夏

綾子

「生きるか死ぬか」「女と懇談しました。

「生きるか死ぬか」「女と懇談しました。

「生きるか死ぬか」「女と懇談しました。

「生きるか死ぬか」「女と懇談しました。

「生きるか死ぬか」「女と懇談しました。

「生きるか死ぬか」「女と懇談しました。

二〇一九年七月

雑詠

大きなこと思う核禁夏の雲
憲法と生きる塔頭苔むして
珈琲ゼリーあの一言が崩れだす

代表 大後戸綾子 082(829)0056まで